

中国東部 2 歩行記録

6 期 篠崎 次郎

期 日 2009, 5, 24~6, 6

メンバー リーダー 戒能 俊邦、 会計 江守 善昭、 記録 篠崎 次郎
土屋 淳一、 中村 文広、 蔵田 道子、
前半のみ参加 石塚 正太郎、 斎藤 篤二、 計 8 人

行動計画

5月24日	成田—北京		北京泊
25日	北京西—邯鄲	列車	邯鄲泊
26日	沙河—高邑	歩行	石家荘泊
27日	高邑—新爾	歩行	石家荘泊
28日	新爾—保定	歩行	保定泊
29日	保定—霸州	歩行	天津泊
30日	休日	天津市内観光	天津泊
31日	霸州—西青	歩行	天津泊
6月01日	西青—寧河	歩行	*寧河泊 唐山に変更
02日	寧河—唐山	歩行	*唐山泊 安山に変更
03日	唐山—安山	歩行	秦皇島泊
04日	秦皇島—北京	市内観光後北京へ	北京泊
05日	北京	市内、長城観光	北京泊
06日	北京—成田	帰国	

*印 歩行が予定以上に進んだため歩く区間とホテルが遠くなり、朝のスタートまで時間がかかるのでホテルを先に進めた

歩行記録 (前半)

前半は8人での歩行、中村さんが日本を出る前に足に肉離れを起こした為様子を見ながらの歩行とし、10キロ前後を当日の最終点から単独で逆行する出会い方式とした。従って一人歩きを2班、二人歩きを3班、計5班で歩行することにした。結果として4日間でスタート点の国道107号432キロポストから国道112号49キロポストまで389キロの歩行を完了した。良い天気にも恵まれ、皆さんの頑張りですべての歩行ができた。中国もアメリカ発の経済不況に巻き込まれ、建設中のマンションの中断などが多く見られた。国もこの不況対策として公共事業に力を入れているためかあちこちで道路工事が行われ、我々の歩行にはかなりの悪影響が発生した。交通渋滞、バイパス工事などで道路が変わっていること、立体交差で道路が途切れているなどがあった。

5月26日 晴れ 気温30度を越え

1班	25キロ	戒能	2班	20キロ	石塚、蔵田
3班	20キロ	江守	4班	25キロ	土屋、篠
5班	10キロ	中村			

8時ホテルをスタートしたが道路工事等で渋滞が続く。この渋滞は一日続いた。1班のスタートが9時30分、5班は12時35分と午後になってしまった。工事中でも歩行は可能であるが砂塵が舞い辛い歩行となった。こあたりは麦畑が多くそろそろ刈入れの時期、刈入れのプロ達が大型の刈り取り機を運転、数台が連なって通過して行った。迎いの車も当然遅れるので高速を利用できるところは利用してもらい、何とか明るい内にホテルへ着くことができた。



5月27日 日晴れ 気温32度越えか

1班	20キロ	石塚、土屋	2班	25キロ	江守、篠崎
3班	20キロ	戒能	4班	20キロ	斎藤、蔵田
5班	10キロ	中村			

この日は道路工事も少なくまた渋滞も石家荘の街中ぐらいで順調にスタートが切れた。そのためどの班も15時前には歩行を完了できた。

石家荘の街中4～5キロは商店が続く。建設資材、工具、電気製品、種々の部品、雑貨、など所謂問屋街である。歩道は製品が並び、道路は駐車する車も多く、歩行者は車道しか歩けない状態だ。これを見ていると中国経済は活発に動いていることを感じさせられた。



5月28日 曇り時々小雨 気温26～7度か

1班	25キロ	江守、斎藤	2班	20キロ	石塚、篠崎
3班	20キロ	土屋	4班	25キロ	戒能、蔵田
5班	10キロ	中村			

この日も道路工事で進めずスタートが遅れた。5班のスタートは12時近くになってしまった。また保定の街中を通過するなど複雑な経路に注意しての歩行だ。しかし大きなトラブルもなく進むことができた。迎いのバスが遅れることを予想し4班、5班はホテルにも近いので歩行完了後タクシーでホテルへ直行した。また蔵田さんはやや体調を崩し25キロは無理そうで途中でホテルに行くことになった。今日は天津方面への分岐、省道333号の入り口まで来た。

5月29日 晴れ 気温30度

1班	25キロ	土屋、戒能	2班	20キロ	石塚、斎藤
3班	20キロ	篠崎	4班	20キロ	江守、蔵田
5班	12キロ	中村			

今日は2点ほど問題が発生した。1点は1班が歩行完了点を見つけられなかった。それは道を間違えたからであった。昨日の終点で車は右折点し1班を下ろし前進、左に曲がりながら交差点の大きな工事現場に入った。地図とは違っていたのでガイドは車を降り現場の人に道を確認、

そして直ぐに歩行者に電話連絡した。そしてさらに直進し本来の省道S 3 3 3に出た。S 3 3 3にはキロポストも出てきた。そして1班の終点を車のメーターで決め連絡した。しかし歩行者はスタート点の右折が本来より手前であることをはっきり認識しておらず、正しい道を歩いていると信じながらも何か変だと思いつつ前進、30キロ近く歩いてしまった。ガイドと連絡しても歩行者は何処にいるのか分からず、ガイドが機転を利かせ近くの道のわかりそうな中国人と電話を替わるよう指示、やっという場所が確認でき合流できた。

もう1点は2班の歩く橋が小型車しか通れずバスは迂回せざるを得ないことが発生した。その迂回の案内料が30元との話、町が通行税のような形で徴収していた。橋は人は歩けるようだが渡った先がどうなっているのかを確認し、問題なさそうであると判断し前進した。道はポプラ並木も多く歩き易い所も多かった。全ての歩行が完了しホテルに入ると土屋さんの体調が思わしくない。暑さの中でオーバーワークだったのだろう。食欲もなく動悸がするとのことでベッドで休んだ。軽い熱中症らしい。幸にも翌朝は回復しほっとした。翌日は休養日でのんびりと観光ができ元気になった。



5月30日 晴れ 気温30℃越え 天津市内観光

天津に入ると空が綺麗になった。北京や石家荘ではどんよりと曇っており雲らしきものも見えなかったが、天津では海も近く青空が見えてきた。天津の市内はヨーロッパの雰囲気があり他の中国の街とは違う。これは19世紀末までに イギリス、フランス、アメリカ、日本、など9カ国の租界があったことが影響しているのであろう。現在も租界地は当時の姿で残っており異国情緒が漂っていた。

この時期中国では端午の節句で市内では衣装を身に付け、太鼓や鉦を鳴らし行列が行われていた。また広場の一角では着飾った女性たちが踊っている姿も見られた。市の博物館、古い建物の並ぶ商店街なども散策して楽しんだ。



歩行記録（後半）

予定以上に進んだため明日からのホテルの位置が悪く、変更の必要が出てきた。寧河のホテルをキャンセルし6月1日は唐山泊、6月2日は安山に変更した。中村さんの脚もかなり回復したので距離も15キロ以上に増やし、一人歩きを2班、二人歩きを2班、計4班で歩行するこ

とにした。相変わらず道路工事、暑さと砂塵の中の歩行となったが、皆さんの頑張りで秦皇島の新世紀公園まで306キロの歩行を完了した。

5月31日 晴れ 気温30度

1班 25キロ 戒能

2班 25キロ 江守、篠崎

3班 15キロ 中村

3班 20キロ 土屋、蔵田

この日は天津市内をどうスムーズに通過するかが問題である。協議の結果 G112からS111に入りG204経由でS112に入り東へ進む。そしてG205へ入るルートとした。このルートは車で走りポイントを確認、歩行は逆行することにした。しかし実際に走るとS112が京津公路立体交差点で消滅、仕方なく回り道をして京津公路に出てそこを2班、3班の起点として歩行を始めた。その他市内に入るまでと、出てからは問題なく進んだ。

6月1日 晴れ 気温32度越え

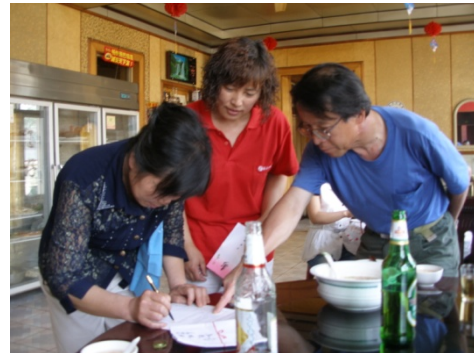
1班 20キロ 江守

2班 20キロ 篠崎、戒能

3班 20キロ 中村、蔵田

4班 20キロ 土屋

G205を歩く。相変わらず道路工事は出てくるがポプラ並木の道も多く歩きやすい。唐山市内を通過する所は車で走り、歩行は逆行した。そして一人歩きなのでガイドと一緒に歩くことになった。特に問題なく終了



6月2日 晴れ 気温32度越え

1班 20キロ 中村、江守

2班 20キロ 篠崎

3班 20キロ 土屋、蔵田

4班 20キロ 戒能

この日も道路工事などでバスが進めず、4班のスタートは12時30分になった。ルートは鉄道沿いのG205で問題なし。暑さと砂塵に悩まされての歩行であった。

6月3日 晴れ 気温30度越え

1班 13キロ 中村

2班 15キロ 戒能

3班 13キロ 土屋、篠崎

4班 10キロ 江守、蔵田

今日は歩行最終日、今回の歩行の最終点は秦皇島の新世紀公園とした。そこまでを各班10～15キロに割り振り歩行、完了後新世紀公園手前2キロに集まり、全員で公園まで歩いた。そして歩行完了を喜び合って終わりとした。秦皇島は青空もあり街はきれいで、道路、街路樹、花壇などよく整備されており気持ちのいい街であった。



6月4日 晴れのち雨 観光後北京へ

午前 山海関観光（海まで繋がっている長城）

ユーラシアの旅では 嘉峪関、黄土高原近くの長城跡、八達嶺、山海関、と4か所の長城を見ることが出来た。嘉峪関から3年かけて海に入る長城まで見ることができ感激した。こんな巨大なものをどうして作ろうとしたのだろうと見る度に思ってしまう。

午後 北京へ車で移動

6月5日 晴れ 北京観光

午前 長城（八達嶺）

さすがに観光用に整備が出来ており観光客も多い。すれ違いには行列を待つほどだった。しかし急坂の多い男坂は人が少なかった。

午後 市内観光

北京の下町商店街、天安門広場などを見て歩く。天安門事件20年で天安門広場はテロに備えて厳重な警戒をしており、手荷物、パスポートなど検査があつて中には入れた。

ガイドの話だと警察官の倍くらいの私服警官もいるようで一番安全なところとも言えるとの話だった。

6月6日 晴れ

北京→成田 帰国

中国東部一2を歩いて驚いたこと

5期 中村 文広

中国も何回か歩きたいのことに驚かなくなったが、それでも今回中国東部一2を歩いて驚いたことがいくつかあった。特に印象に残ったことを書いてみたい。

整備される高速道路網 今までに何度か工事中の高速道路を歩いたが、初めて高速道路を車で移動した。秦皇島から北京まで約280Kmを走ったほかに、時間を稼ぐため歩行地点への移動やその帰路に多く利用した。制限速度は乗用車で130Km/H。ガイドの張さんの地元、河南省だけでイギリスの高速道路の全長より長い4千Kmを超える高速道路網があるとのこと。広い中国各地が高速道路網で結ばれる日も近いと思った。

国道も整備中 歩行していたら工事中になり、突然行き止まりになってそのまま国道が消えてしまうような場所がいくつかあった。新しい国道を別ルートで作っているからのようだ。前日タクシーを使って何とか辿り着いた107国道の233キロポストに翌日は伴走車のバスが入って行けず、新設の国道で真新しい233キロポストを発見して驚いた。開通後どうやってキロポストをつなげるのかと思った。天津や唐山ばかりでなく地方の中核都市も市内はもちろん市内への取り付け道路も立派に整備されている。片側5車線とか7車線の道路もあった。用地買収の問題もあると思うが、この点日本はずっと遅れている。

有料村営道路 前半歩行4日目、徐水から省道333を各班の歩行開始地点向かって東へ進み白淘鎮手前の大川の橋まで来ると入り口に高さ制限のあるゲートが取り付けられていた。我々

のバスは通れず30元払ってガイドを雇い、村営の狭い泥道を迂回して向こう側に行かなければならなかった。この間一時間。昔、通行税を取り立てた話の現代版である。お陰で第5班の歩行開始は宿を出た5時間後の午後一時となり、昼食は車中で済ませた。

車優先の社会 中国では赤信号でも右折は許されている。多分、本来は安全確認など条件付だと思うが、今や運転者にとっては当然の権利になっているようだ。赤信号でも速度を落とさず右折してくる。青信号で横断歩道を渡っていて、当然止まってくれると思っても、お構いなしに警笛を鳴らし突っ込んでくるのには驚き、身の危険さえ感じた。

抱っこ運転 自転車と並んで軽バイクも多い。二人乗りや子供を前や後ろに乗せたバイクもある。ヘルメットももちろん被らず、専用の座席すらない。赤ちゃんを抱っこした奥さんを後ろに乗せたバイクもいる。日本が過剰なのか、事故が起こらないのが不思議に思えた。

砂漠化の進行 華中でも雨量が少なく砂漠化が進んでいるようである。見渡す限りの農地も灌漑の水に頼っているとのこと。揚子江の水を北京に持ってこようと幅200mの運河が掘られていて近年中に完成すると聞いたが、水問題は中国の最大の問題点である。車が年100万台のペースで増え続け、排ガスも深刻になるが、砂塵による被害も大きい。鄭州に住む張さんの息子さんは白い雲を見たことがないという。いつも空はスモッグで灰色とのことである。成長期の子供たちにどのような健康上の影響があるのか気になった。

親日的な人々 今回の歩行は小さな村落を通過することが多く、昼食やピックアップを待つ間、近くの食堂に入ることが殆ど毎日の慣わしだった。この辺りは昔日本兵が迷惑をかけた地域に近く反日感情が強いかと心配していたが、まったくの思い過しだった。例外なく親日的で、温かく迎えてくれた。お金を取らない人も多かった。「日本人は小鬼子」という考えは旧思想だという人までいた。路端の木陰で休んでいたら、凍らせた水のボトルを差し入れてもらった時は本当にうれしかった。漢字での会話も新しい中国の漢字が読めず、もうひとつ意思が通じなかったのは残念だった。

経済発展目覚ましい東部を歩いて

4期 土屋 淳一

まわりつく土埃の中、年齢相応の体力減退と熱中症もどきで、開発・改革に対する、歩行中の、ものの見方は消極的観察となった。

いずこも建築ブーム：30階や40階建ての新設マンション棟が群立。6階までのマンションはエレベーター設置の義務はないとのことである。安くできると、これも群立。購入者の老後、上下水道や交通の便などのインフラはどうなっているのか不明でいらだつ。

交通事情：北京は自転車規制があり少なかった、その代り朝夕の市内バスは牛詰め、その上、乗用車も多く渋滞だらけ。今回の歩行区間の都市、邯鄲、石家庄、唐山、天津、秦皇島などはやはり自転車通勤が多い。しかし自転車は「でんどうしゃ」が多く音もなく走っている。スクーター型の電動車も有り、若い女性たちは足をそろえて澄まして乗っている。ガイドの張さんに「ハットするような人はいないね」といったら「そういう人は皆、北京へ行ってしまいます」だと。多くの人の所得は上がって購入できているようだ。歩いていると後ろから音もなく三輪自転車タクシーがよってくる。これも電動。

道路環境：オリンピック後の景気刺激策として国道の改修工事が多くなったとガイドが言う。

ここ河北省の国道205、112、省道333にはところどころ拡幅、再舗装の工事現場にぶつかり迂回や片側車線だけの道の歩行を余儀なくされた。工事現場は、予算の関係かブルドーザーで既存の舗装をはがし土の路面のまま走行車線としている箇所が多い。時には隣の車線が舗装完了部もあったが、ともかく工事が止まっている。公共投資予算が息切れしているのか作業している様子がない。16輪のコンテナトレーラー車や大型ダンプトラックがタイヤで路面の土埃を巻き上げて走る。工事場では上り下りの車が渋滞しタイヤで路面の土はミクロの粉に粉碎されて巻き上がり、そして轍につもり、次のタイヤでまた舞い上がり、いつまでも車体にまとわりつき周囲に撒き散らしながら、がたがたと走る。工事のない道端で休もうとしても路肩の補石には白い土埃で座れない。

経済的開発・発展：安新への道2キロほどの道沿いには重機（ブルドーザーなど）のレンタル企業が乱立して軒並み重機を並べて同業が群れていた。町を出た広い麦畑の中に鞋企業（靴工場）の四角な建物が点々とあった。世界の靴はここから供給されているのではないかと思える数である。従業員は寄宿して黙々と生産に励んでいるのか周辺には人影も家もない。配送の車も見えない。ここも同業企業の群れである。

天津に近づき「国家自然保護区 天津古海岸与湿地」の看板がある地域に入った。池が多く、魚、えび、亀などの養殖が盛んのようなのだが、道沿いの池は枯れていたり、釣堀になったりしていた。しかしこの地の豊かな水を利用してかセメント工場か製粉工場なのかわからないが大きなサイロを何本か配置した広い敷地の工場がポツポツとできている。やがて工業団地が作られてしまうのではないか。

この辺りの麦畑は、まだ葉茎が緑であるが、西に向かって、前に鋤と脱穀ローターを付けた麦の刈取車が隊伍を組んで通り過ぎて行く。車は同一社名入りであるが、運転台には子供連れや夫婦或いは仲間と思われるものがそれぞれ同乗している。季節労働の人々のようだ。西の端より徐々に何日もかけて働きながら戻って来るのだろう。

人々の親切：昼食は休憩を兼ねて、沿道からの土埃を厚いビニールの短冊暖簾で遮断した田舎の食堂に入ることが多かった。これらの店は家族経営が多いようだ。趣意書見てもらいサインをもらう。ビールを注文して「ミェン」（麺）と覚えてたの「チータータンタン」（トマトと卵のスープ）で済ます。手まねとチェキで交流。ある老夫婦の店では字が読めないのか、親父は近くの中国石化スタンド員を呼んで対応してくれた。お土産に、にんにく玉二房をくれた。歩き終わって迎車待ちの時間つぶしとビールが飲みたくて工事中の橋の奥の寂れた町に入ったが、どこも開いてない。やっと超市の看板があり、入るとビリヤード遊技場。奥さんと子供が対応してくれた。ビール一本で時間つぶしにかかる。サインを頼む。奥さん学校で習ったのかHow are you など英語で書いて娘の童羽茜（トンクージー11才）に確認する。年齢が話題になりワン、とかセブンなど奥さんやクージーちゃんと遊んでいたら迎えの車が来てしまった。奥さんが乗車口まで送ってくれた。

今回も、多くの人々からの親切な対応を受け感謝・感激した。謝意を記録しておきたい。

人々の暮らしと食生活

15期 蔵田 道子

依頼されたテーマについて、何を書けば良いのか戸惑っています。今回初めて参加して、歩くことに必死で周りの様子を観察したり、探求したりする余裕がありませんでした。

そこで、あくまで私の感じたことを書いて報告としたいと思います。

暮らしの様子ですが、大都市とそこからちょっと出ただけの小さな町の格差を感じました。人々の生活の実態にまで入り込めないのが、外から見た感じだけですが、都市ではどこも高い建物が建設中でしたが、郊外の町では古くて昔ながらの建物だけだったように思います。生活の中に踏み込んだ唯一の場所が毎日一度はお世話になるトイレの様子ですが、詳細は省略します。(確かに、トイレの在り方は文明のバロメーターではないかと実感しました。)

食生活についても、自分の毎日の食事の在り方が現地の方とどれだけ一致しているのか、違うのかわかりませんが思ったことを書いておきます。中国料理の一般的な事かと思いますが一皿の量がかなり多く大勢の人と食事をする時はいろいろ注文することができて良いのですが、人数が少ないと一皿の料理さえ持て余してしまいます。お昼の食事でも数人の人々でいろいろ注文することもよくあるのですね。私たちの場合は、普段は主食の麺で簡単に済ますことになるのですが、種類がいろいろあるのに、びっくりしました。(考えてみれば当然ですが。私にとっては新発見でした。) まず中華の麺というのは日本で思っていたのと違って、どちらかというとうどんのような麺でした。よく食べたのが牛肉麺、これは汁のある麺です。ジャージャー麺、とかトマトソースの様な味のつゆに卵とか野菜が入ったものをかけて食べる麺もあります。麺自体も板麺と言って、きしめん風の太い麺とか刀削麺と言う包丁で塊を削っていった麺を作るといった様な初めて見る物もありました。乾麺と生というかその場で作る麺の違いもあります。ソーメンのような細い麺は乾麺だったと思います。(鍋料理を食べに行った時、最後に鍋に入れて食べました。) 食堂が見つからない時のために、山用の乾燥米の食事を用意して行った時、食堂でよく注文したのが卵スープ。薄味でトマトも入っていておいしかったです。今回、夕食とか一部昼食も含めて、ガイドの張さんがいろいろな食堂へ連れて行って下さってとてもありがたかったです。有名な高級レストランもありましたが、小さな安いお店でも結構おいしくて、値段だけではないなあと思いました。

最後によくわからずにもらってしまいました。1番暑い日の最後の方で凍らせたペットボトルの水を道端で休んでいる時いただいたのが忘れられません。その日の最後の歩行が、随分と元気付けられました。中国の方とあまり話す機会がなかったのですが、(時間的にも、言葉の問題もあり)印象に残っている思い出です。